第２回生涯学習推進懇談会全体会議事録

〇開催日時　　平成１３年３月２６日（月）　午前１０：００～正午
〇開催場所　　市役所本庁　１４Ｃ会議室
〇出席委員　　２１名
　齋藤会長、福田副会長、添田副会長、柳田委員、浅川委員、小林委員、数又委員、
　篠崎委員、佐々木委員、我妻委員、木村委員、鈴木委員、永田委員、伊藤委員、大房委員、
　須藤委員、松本委員、三村委員、加藤委員、中山委員、吉田委員
〇欠席委員　　８名
　大坪委員、市川委員、保田委員、大久保委員、金子委員、臼井委員、渋谷委員、人見委員
〇会議の公開・非公開の別　　公開
〇傍聴者　　０名　（うち報道関係者　０名）

〔議　事〕
（高野課長補佐）― 開会あいさつ　―

（斎藤会長）
　第２次生涯学習計画を宇都宮市にふさわしいものにするよう、委員の皆様にいろいろご協議いただき感謝している。この計画は、今後１０年間の計画であり、あまり細かいことを盛り込むとすぐに改正しなければならなくなる。基本的な考え方をきちっと述べられている計画とすることが肝要だと思う。本日は、これまで分科会で出された意見を調整したいと考えているので、議事進行にご協力をお願いする。
　それでは、まず、協議事項（１）の「第 2 次生涯学習推進計画に対する意見」についてですが、資料１に基づきまして、それぞれの分科会の座長さんから、分科会の主な意見をご報告していただきたいと思います。まず、「生かす」分科会の添田座長さんからお願いします。

（生かす分科会　添田座長報告）

（学ぶ分科会　福田座長報告）

（つなぐ分科会　佐々木座長報告）

ありがとうございました。それぞれの分科会の座長さんから、分科会の主な意見を報告していただきましたが、内容をご確認のうえ、別の分科会の意見に対するご意見・ご質問などがあれば、ご発言をお願いします。

（加藤委員）
　「子どもの教育は親の責任」「学んでいない人を学ばせることは行政の責任」とあるが、その真意を伺いたい。

（福田委員）
　生涯学習は、主体的に学ぶことが基本だ。しかし、最近、社会教育が衰えてきて、それに伴わない、従来人間が持つべき道徳観や家庭教育などに関する学習機会が少なくなってきている。そのため、青少年問題などが顕在化してきており、こうした問題を解決するためには、社会教育や家庭の教育力の充実が必要であり、そのことは、行政と親の責任であるということである。

（我妻委員）
　話し言葉を活字にすると表現が違ってきたりするので、注意してほしい。また、主な意見に入っていないが、「学ぶ」には主語があるのに、「生かす」には主語がない。日本語なので違和感があまりないが、英語にすると成り立たない。学んだ人が生かすのか、学んだ人を生かすのかをはっきりすることが必要だと思う。

（添田委員）
　「女性の社会進出の進行のため、家庭の教育力が低下した」という表現は、男女共同参画の取り組みが進む中、子育ての責任は、父親・母親の両方にあることが常識であり、こうした表現は不適切であり、計画策定の際には十分注意してほしい。

（小林委員）
　「学習成果の発表の場をまちの中に設定してほしい」とあるが、具体的には、どういう意味なのか聴きたい。

（柳田委員）
　それぞれの地域の中で、活発な活動が行われているが、参加する人たちが固定してしまっている。それ以外の人たちが、新たに参加しにくい雰囲気がある。そうした人たちが気軽に参加できるようにするためには、地域にとらわれない全市的な活動の場を創る必要がある。こうした場は、いろいろなところに住んでいる人が参加しやすい都心部がふさわしい。また、都心部に来ることで、いろいろな刺激があり、いきがいにもなる。また、子育てについては、親の責任だ、学校の責任だというのではなく、社会全体の責任だと思う。

（齋藤会長）
　第１次計画は、新しい分野の生涯学習にどう対応するかが課題だったが、第２次計画は、生涯学習と社会教育の関係をどう設定していくのかが、課題だと思う。生涯学習と社会教育の壁を取って、一元的に推進していくより、ある程度の住み分けをして協力しながら進めていく方がよいと思う。これからの生涯学習は、実践的な学びが重要であり、それが「生かす」ということであり、社会教育との接点が広がっていると思う。

（小林委員）

生涯学習活動は、専門的なもの、趣味的なもの、社会教育的なものに分かれると思う。行政は、その中で、一般教養や家庭教育などの社会教育的なものを、積極的に支援することが必要だ。そうした場や機会を提供して、市民が自主的に活動するようになるまで、サポートしていくべきだ。

（加藤委員）

「魅力ある大人になる」とあるが、魅力あるとは具体的にはどういうことか聴きたい。

（佐々木委員）

エピソードが省かれているので分かりにくいが、子どもの成績を上げるのに一番効果的なのは、親が楽しく学んで、子どもにその姿を見せることだということです。模範的な大人もいいが、大人っていいなと思わせる大人になることが必要だという意見です。

（齋藤会長）

それぞれの分科会の意見を見ると、子どもにどうこう言うよりも先に、大人がしっかりしてほしいという意見が多い。子どもの教育とともに、大人の教育が必要だという視点だが、評価できると思う。ここで、事務局から、今後の進め方について、説明してほしい。

（小杉課長）

意見書については、皆さんに再度お集まりいただくのではなく、郵送して内容をチェックしていただきたいと考えております。チェックしていただいた後、会長、副会長、分科会座長、副座長と最終調整して事務局でまとめていきたい。４月中に、懇談会の総意として、齋藤会長から教育長に意見書を提出していただき、推進計画の素案を訂正していきたい。

訂正した素案を庁内の推進本部で協議した後、再度委員の皆様にお集まりいただき、素案を提示したいと考えております。

（須藤委員）

社会教育の取り扱いをどうするのか。生涯学習の中に入れるのか、入れないのかをはっきりしないと、基本方針を出せなくなってしまう。

（小杉課長）

先ほど来、生涯学習になってから、社会教育がおろそかになっているとの指摘がありましたが、この計画では、社会教育を含めた生涯学習推進計画としたいと考えています。

（井上係長）

資料 2 について説明

（我妻委員）

生涯学習では現在、趣味、ボランティア、子育てなどが見受けられる。中でも大事なのは、高齢化が進む中で、今後の日本を支える人たちを育てるボランティア活動や、子育てに関することなどで、これが生涯学習の大きな役割だと思う。

（篠崎委員）

社会教育と生涯学習の関係が混乱しやすいので、佐々木委員に生涯学習の概要について説明してもらいたい。

（佐々木委員）

縦で観ると、生涯学習は、「生涯」とあるように、生まれてから死ぬまでの一生涯の学習と捉えられる。横で観ると、一生涯学習するわけですから、家庭教育、学校教育、社会教育を含んだ大きな概念となる。そのため、生涯学習には、家庭教育の部分、学校教育の部分、社会教育の部分があって、これまでは、社会教育の部分が大きいため、生涯学習と社会教育はほとんど同じだと言われてきた。ところが、最近、家庭教育の大事さが叫ばれ、家庭教育の担当・管轄は、やはり生涯学習だということになって混乱してしまっている。生涯学習は大きなお皿のようなもので、その上に、社会教育・学校教育・家庭教育が乗っていると考えればよい。家庭教育を重視した生涯学習、社会教育を重視した生涯学習などがあり得る。

（齋藤会長）

「生かす」を最初にしているが、分かりづらい。「学んだことを生かし、つなぐ」のだから、「学ぶ」を一番目にすべきである。「いかす」を強調したいのは分かるが、総括文句として「実践する生涯学習」を計画の基本的な性格とすれば、順番にこだわらなくてもそのねらいは達成でき、さらに、県の生涯学習プランにも沿った流れになり、市民も理解しやすいのではないか。

また、「学縁」は、新造語なので、市民が分かるように次のような注釈をつけたほうがいい。『学縁とは、血縁、地縁ということばで表現されているように、人と人を結びつける因縁を現す語である。その内容は、学習活動を媒介として形成される人間関係で、血縁・地縁のように役割を固定して、永続化するものでなく、より自由で多様な個性の発揮を可能にするものである。こうした人間関係を、社会的な課題を解決する基盤とするため、学縁都市宇都宮を創造する。』と加えれば、市民にも分かりやすい。

（篠崎委員）

齋藤会長の意見に賛成だ。注釈をつけないと市民に誤解を与える。順番についても同感だ。

（中山委員）

「学縁都市」は奇抜で、県民性・市民性に硬いイメージがあり、市民に受け入れられるか難しいと思う。計画は、市民性を考慮して、急激ではなく、着実に生涯学習を推進するものにしてほしい。

（篠崎委員）
　小中学校の空き教室を利用して講座を開催することを進めるべきだ。

（加藤委員）
　楽しく学ぶ、楽しく生かす、楽しくつなぐという観点が必要だと思う。また、男女共同参画は計画の内容に盛り込まれているが、男女だけでなく、世代間の交流も重視すべきである。

（鈴木委員）
　「学ぶ」は、３０数年間やってきている。また、「生かす」は、最近多くの人が取り組むようになってきた。今後、１０年間の計画を考える上では、「つなぐ」にポイントを置いて、しっかり作れば、10 年後でも十分に通用するものになると思う。

（松本委員）
　今後、生涯学習を推進していくには、学びたいカリキュラムについて、企画・立案に市民の参画が必要ではないか。計画の中で少し触れられているが、もっと強調すべきだと思う。

（添田委員）
　市民参画と関連するが、各分野で活躍している団体が多くあり、こうした団体を「生かす」の部分で活用したり、支援することが必要だ。団体の育成、団体活動の奨励を強調してほしい。

（井上係長）
　先ほど課長からも説明がありましたが、今後の進め方について、再度説明します。４月中に、懇談会の意見書案を作成して、委員の皆さんに郵送しますので、修正のうえ返送していただきたいと思います。その後、事務局で会長、副会長、分科会座長､副座長と協議・修正して、最終意見書を会長から教育長に提出していただきます。５月中には、意見書を参考にしながら、計画案を作成したいと考えています。その計画案を推進本部幹事会（関係課長会議）に諮って修正し、その後、推進懇談会の中で協議していただき、以後、庁内で協議を重ねて、概ね７月末を目途に計画書を委員の皆様にお示したいと、今のところ考えています。

（齋藤会長）
　加藤委員の楽しく行うという観点が重要だという意見や、団体の育成が必要だという意見も意見書の中に入れていきたいと思う。以上で、会議を終了します。ご協力をいただき、ありがとうございました。

（高野課長補佐）― 閉会あいさつ　―